

かごしま国体等「観戦・観光ガイドブック」 作成・地域観光人材育成プロジェクト

小林善仁(法文学部人文学科准教授)・南直子(法文学部人文学科助手)・永迫俊郎(教育学部准教授)

1. プロジェクトの目的

令和5(2023)年10月に鹿児島県で開催される「かごしま国体・かごしま大会(全国障がい者スポーツ大会)」に関連して、大会参加者(選手・監督)・大会関係者・一般観戦者を対象とした鹿児島市の競技施設周辺の観光ガイドブック作成とそれに向けた地理的教育の実践を目的とする。この点は、「『鹿児島の近現代』教育研究拠点整備事業」の目指す、地域に関係する地理的・歴史的資源の研究と地域への成果の還元に加え、地域の観光に関する課題を踏まえた観光まちづくりと地域の観光業の活性化、さらには地域観光人材の育成にも資する地域振興の取り組みの一つである。

2. プロジェクトの内容

本プロジェクトは鹿児島市観光交流局国体総務課の依頼を受け、鹿児島大学が連携協定を結んでいる日本航空(JAL)鹿児島支店・鹿児島市と協働して、上記の「観戦・観光ガイドブック」の作成事業と連動した取り組みである。鹿児島市では、市内の観光地を記した従来の観光ガイドブックとは別に、競技の前後や合間の時間に、会場周辺を散策して貰う「観戦・観光ガイドブック」の作成を企画していた。流行に敏感で情報発信に長けている若年層の意見を取り入れるため、企画に関連する分野として人文地理学を学ぶ人文学科多元地域文化コースの小林ゼミが参加することになり、令和4年9月から11月に学内外で5回のワークショップ(取材を含む)を実施した。また、ガイドブックの作成には、対象地域に関する歴史的・地理的な分野を跨いだ広い知識はもとより、地域の観光的な見所を掘り起こす多角的な視野が求められる。そこで、県内外の観光に取り組む地域(福岡県福岡市、鹿児島県大島郡喜界町)へ足を運び、観光に関する知識と経験を蓄えることで、身近な地域の観光資源を発見し、学術的・相対的に評価して、観光的な価値付けを行える地域観光人材を育成できる。

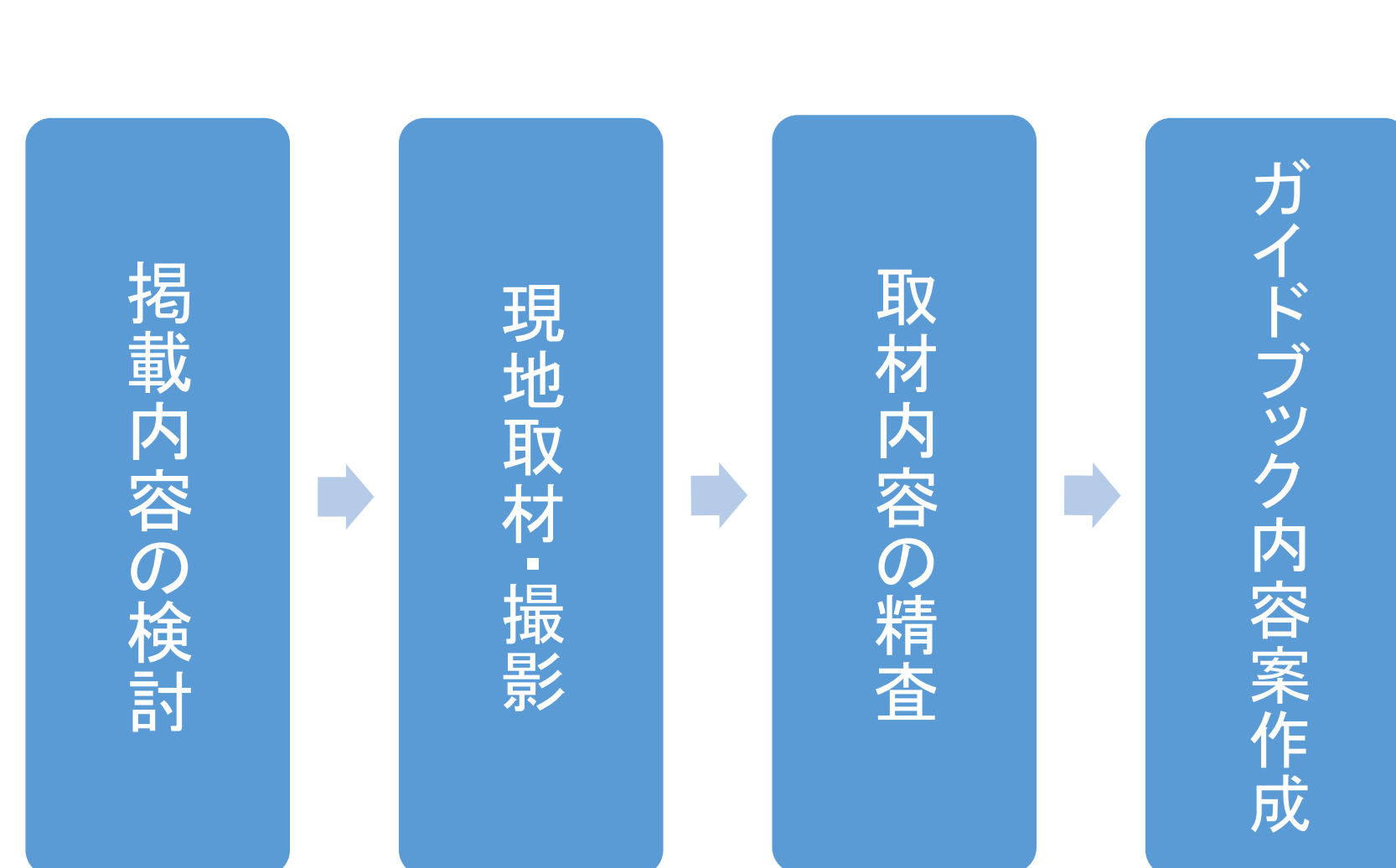


図1. ワークショップの流れ

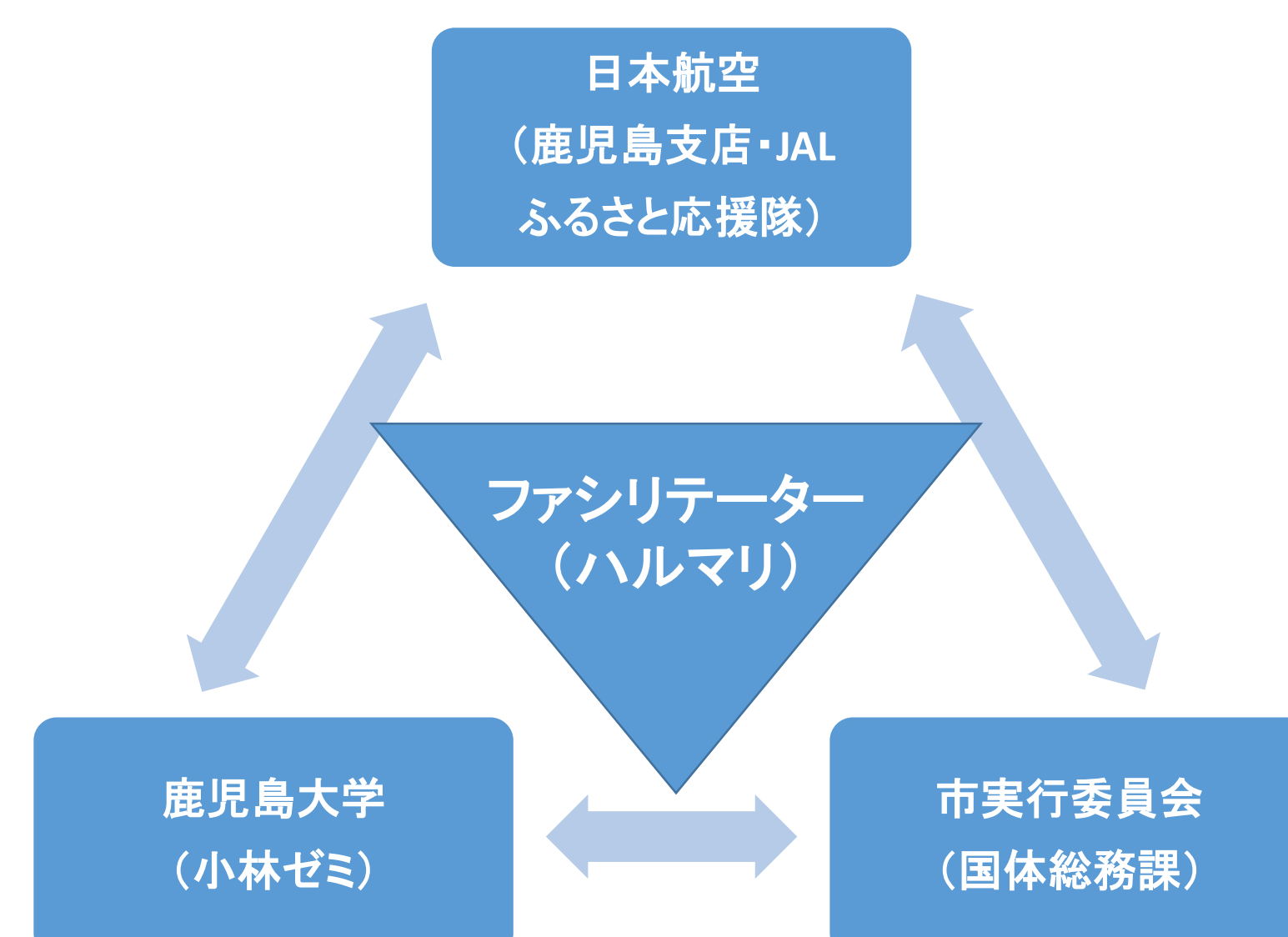


図2. 実施体制

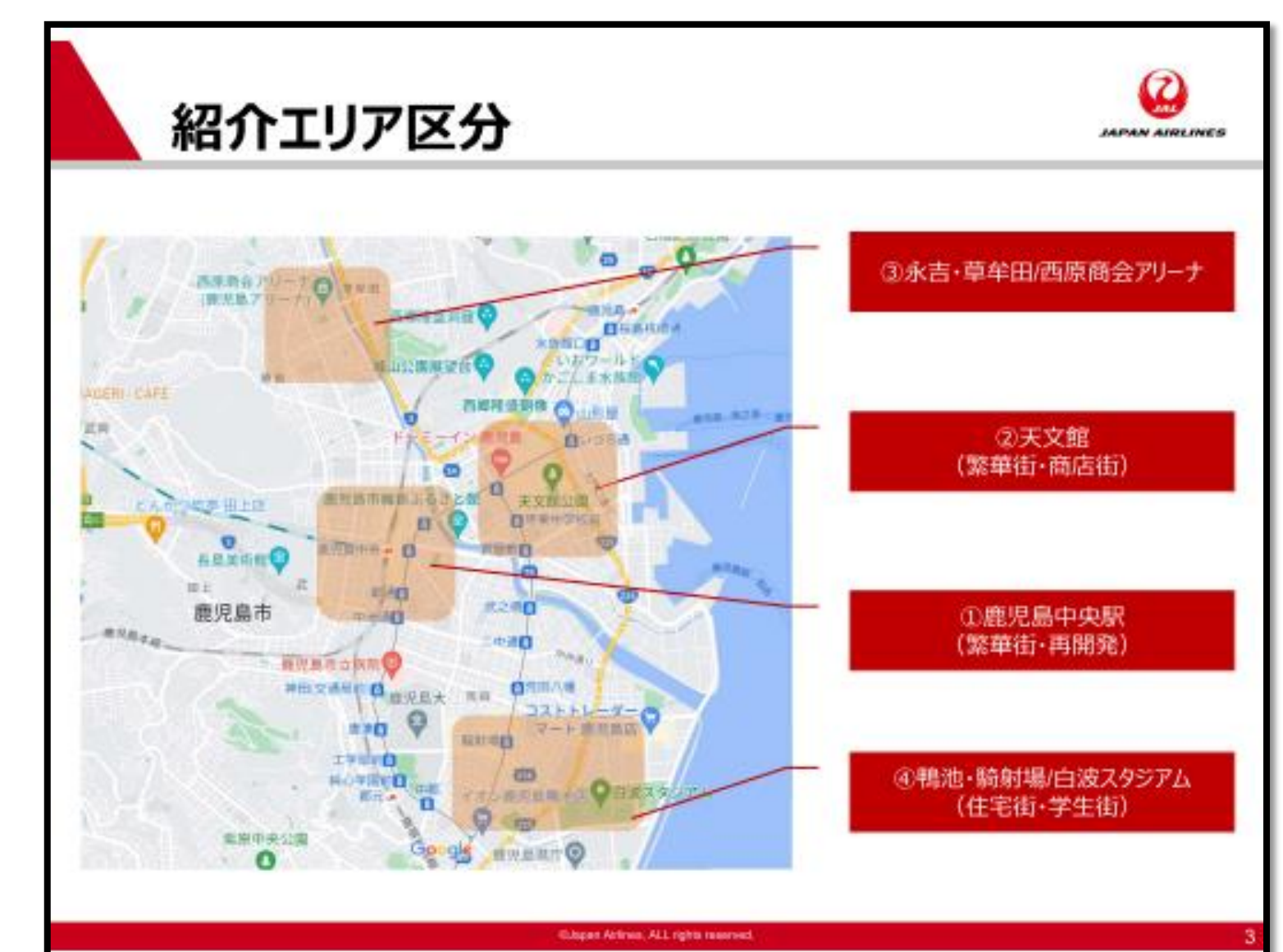


図3. 対象地域

3. プロジェクトの成果

- ①鹿児島市『燃ゆるかごしま国体・かごしま大会観戦・観光ガイドブック(仮称)』(令和5年夏頃発行予定)の原案を学生が取材・作成。
- ②観光に取り組む地域での野外調査を通じて、学生が観光に関する知識と経験を得るとともに、主体的に身近な地域の観光資源を掘り起こし、学術的・相対的に評価して観光的な価値付けを行う姿勢と視点を修得。地域の観光資源を学生独自の視点から発掘するだけでなく、地域が抱える観光に関する課題を発見・解決する眼と力を育んだ。



図4. 「観戦・観光ガイドブック」の原案



図5. 取材の一コマ



図6. 野外実習の様子(喜界町スギラビーチ)

【謝辞】

本プロジェクトを実施するにあたり、鹿児島市役所国体総務課、日本航空鹿児島支店並びにJALふるさとサポーターの皆様をはじめ、取材先など多くの方々のお世話になりました。なお、本プロジェクトは「鹿児島の近現代」教育研究センター「地域マネジメント教育研究推進事業」の助成を受けて実施したものです。ここに記して、厚く御礼を申し上げます。